

【学校を拠点とした家庭教育支援チームの取組例】 (宮崎県延岡市)

【ねらい】 3つの小学校を拠点に、地域で孤立した子育て環境にある家庭や、地域・学校行事等に参加しない保護者、複雑な環境にありながら危機感がなくSOSを出さない家庭等への支援を図る。

【チームの構成員】 子育てサポーターリーダー(元教員、保育士)、子育てサポーター(民生委員、主任児童委員)計7名

【主な支援対象】 ○基本的な生活習慣に課題を抱える児童の家庭、 ○不登校傾向の児童の家庭
○困難を抱えるひとり親家庭

【活動内容】 ○地域からの情報で虐待の心配など支援を必要とする可能性のある家庭 等

①情報収集・連携先：・学校(担任等との連携、不登校対策委員会、生徒指導担当教諭情報交換会に参加)

・地域(民生委員会、自治会長、公民館長、保育園、幼稚園、児童館、子育てサークル、商店等)

・福祉部局(児童家庭課、健康増進課等) ・学校(養護教諭、担任等、不登校対策委員会、)

- ②活動例：
- ・学校と連携し、不登校傾向の児童や生活習慣に課題のある児童の家庭等を訪問
 - ・訪問先で、子どもの接し方や親子関係、生活習慣などの悩みの相談・助言、子どもの登校支援、子どもの学校での生活や成長ぶりの報告等を継続的に実施。
 - ・福祉部局から「様子を見てほしい」との連絡を受けて訪問し、状況を民生委員、児童家庭課等に報告し、相談協議を実施。
 - ・その他専門的な案件については、関係機関につなぐ役割を担当。

③家庭訪問回数： 1, 062件(132世帯) ※平成21年度実績

【担当者の感想】

- ・子育てサポーターリーダーが学校にいること、サポーターが児童と給食を一緒に食べたり、遊んだりすることで、児童の状況がわかり訪問時の話のきっかけとなるなど保護者との信頼関係づくりにつながった。
- ・登校支援により不登校気味の児童が減り、親も朝食を食べさせるようになるなど相乗効果があった。
- ・繰り返し訪問することで、家庭内で抱える問題(人間関係や家の中の様子等)を把握できるなど、学校での様子だけではわからないものが見えてきた。
- ・学校に拠点としている部屋(相談室)があることで、問題を抱えたり、教室に行けない児童の居場所にもなったり、異年齢交流の場にもなった。



【学校・子育てサポーターリーダーとの情報交換会】

【要保護児童対策地域協議会との連携事例】（大阪府泉大津市）

【ねらい】 地域で孤立しがちな保護者が、様々なストレスからネグレクトや虐待傾向になるケースなど、専門家による定期的な相談だけでは、家庭教育の重要性の認識が低い親や多忙で時間の無い親へも支援が届きにくいため、学校等との連携により、支援チームが訪問して早期対応に努める取組を推進する。

【チームの構成員】 子育てサポータ、サポーターリーダー、元校長、元幼稚園教諭、専門相談員、要保護児童対策協議会6部会代表、教育委員会職員、首長部局職員、学生ボランティア

【主な支援対象】 ○子育てやしつけに悩みや不安を抱える家庭

○虐待、いじめ、不登校、非行、家庭内暴力等の困難を抱える家庭

【活動内容】

- ①情報収集・連携先：
・幼稚園、小・中学校（生徒指導主事、特別支援担当指導主事、スクールカウンセラー等）
・教育支援センター専門相談員
・子ども家庭センター、保健センター、児童福祉課
・要保護児童対策地域協議会6部会（児童虐待防止、社会性育成、心やわらぎ、周産期虐待防止、発達支援、不登校支援の各ネットワーク部会）

②主な活動内容：

○教育支援センターを拠点としつつ、子育ての根ともいえる幼稚園での学習機会の提供、小・中学校での相談対応、家庭訪問を実施。

○保護者への支援は子育てサポーターリーダーが、子どもへの支援は、学生ボランティアが参加。

○必要に応じて、行政、学校、要保護対策協議会との連携を取りながら家庭訪問を実施し、ケース会議で情報共有。

○家庭訪問終了後は、対応策等を整理し、月に一度チームの情報交換等の会議を実施。

【成果や課題】

○最近の親子関係の複雑化に伴う問題に対処し、兄弟姉妹関係も含め支援するため、幼、小、中学校をカバーできる中学校区スポットをあてたことで、効果的な環境づくりができた。

○地域の子育てサポーターリーダーが学校と家庭のつながりを円滑にするとともに、学生ボランティアの子どもへの温かい支援を通して、うち解けているケースが多い。

【地域人材の養成事例】(滋賀県)

～子育てにおける相談やアドバイス、支援ができる人材を養成～

【講座名】「子育てサポーターリーダー養成講座」

【対象】 子育てサポーター、家庭教育支援チーム員 等

【ねらい】 家庭内での虐待は顕在化しにくく、手遅れになる危惧もあり、子ども自身のひきこもりと併せ、家庭環境に大きく左右されることを事例を含め学ぶ。
また、家庭・地域・学校の関係者間のコーディネート能力の向上を図る。

【講座内容】(年間全22回)

○子どもたちを取り巻く現状

・家庭教育の視点 ・学校の現状

○心の鍵を解く カウンセリングマインド

○町内の子育て支援事業を知る

○家庭教育支援チーム員との意見交換・共同活動

○地域の子育て力アップ

【講座修了後の活動】

学校や家庭教育の支援ボランティア、地域の子育て支援事業のボランティアとして活動

(子どもの生活は、地域の中の学校、家庭を峻別できない連続した日常から成り立っており、学校での支援と家庭や地域における子どもたちの健全育成はつながっているため)

【保護者向け学習講座の事例】(石川県)

～児童相談所所長からのメッセージ～

【ねらい】

子どもたちを取り巻く社会の悪化傾向が見られる中、学校だけでなく家庭における非行・被害防止のために、家庭教育力の向上の啓発及び支援を図る。

【参加人数】62人

【場 所】小学校

【対象者】小学校・中学校保護者及び教職員

【講 師】石川県七尾児童相談所所長

【講座内容】

○社会が便利・核家族化し変化してきている中で、育児の負担感や不安感が広がっている。

○親が子どもの話を聞いて心のわだかまりを消化させすっきりさせることや、将来より今のことにはしっかりと向き合うことが大切。

○家族そろっての食事や団らん、相互互助の中に解決のヒントがある。

○親が子どもに地域の中で色々な経験をさせるような子育てを意識することが大切である。

【参加者の感想】

○親も自ら考え試し様々な経験の中から子どもとともに育っていくことが必要だと感じました。

○子どもに親の愛が届かないのは、「子どもが求めていることを親が先走ってやってしまうから」と指摘され、目からうろこでした。もう少し子どもが相談して親を求めてくるのを待ちたい。

【保護者向け学習講座の事例】(石川県)

～子どものSOSやストレスにどう対応するか～

【ねらい】

子どもが発するSOSのサインにはどのようなものがあるか、また、小さなうちに発見できるようにするとともに、大人はどう対応すべきかを知る

【参加人数】81人

【場 所】小学校

【対象者】小学校保護者及び教職員

【講 師】臨床心理士

【講座内容】

- 子どもが出すSOSのサインは分かりにくい場合が多いので、大人が気をつけて見ることが大切である。
- 反抗やイライラは可能な限り吐き出させる、安心できる環境をつくる、子どもの話をじっくり聞くことなどが大事である

【参加者の感想】

- 子どもの心のサインを見逃さず、ストレスをためない、ためさせないような子育てをしていきたいと思いました
- 日頃の子どもとの関わり方の勉強になりました
- 子どもの話を辛抱強く聞こうと思いました。
- 子どもを温かい気持ちで見守っていきたいと思いました。